

あとがき

身近なトピックを題材に「教養としてジェンダーと平和に関わる諸テーマを学び、ジェンダー論と平和学の視点と考え方を身につける」が、本書のコンセプトです。本書を通じた学びによって、ジェンダーと平和の視点から日々の生活の中での出来事を考え、自分の行動を振り返る機会は増えたでしょうか。またジェンダーと平和は切り離せないものであり、人生に大きく関わるものであることを実感してもらえたようになったでしょうか。もしこのようなことを感じてもらえたとしたら、編者としてこれほどうれしいことはありません。

この書籍はジェンダーと平和について考え学ぶための入口を、執筆者なりの切り口で示しているにすぎません。気になったトピックがあったら、それに関わる書籍や資料を探し、さらに関心を広げてください。そのうえで、現代社会で生起している不正義や不平等に対して、それらを変わらない現実として受け止めるのではなく、変えていくための行動を起こしてくれることを願っています。

本書は、2016年に刊行された『教養としてのジェンダーと平和』の続編です。前著は、2013年当時の中京大学教養科目であるジェンダー論と平和論の教員が主な執筆者となり企画されました。本書『教養としてのジェンダーと平和Ⅱ』は、中京大学のジェンダー論の教員である風間孝と平和学の教員である今野泰三が編者となり、『教養としてのジェンダーと平和』のコンセプトを引き継ぎつつ、中京大学以外の多くの大学の授業で使用することを意識し、また前著の出版以降の社会の変化の中で重要と思われる、新しいトピックを取り上げています。執筆者も、本書のトピックに合わせ新たな執筆者をお願いしました。またカバーのイラストは前著と同様、チョン・インキョンさんに引き受けていただきました。本書の趣旨に賛同し、協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。

最後に、法律文化社の舟木和久さんと田引勝二さんには、とりわけ厳しいスケジュールの中で編集作業をしていただき、たいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。

2022年2月吉日

編者 風間 孝・今野泰三